〈指定生乳生産者団体〉九州生乳販売農業協同組合連合会

九州生乳販連会報

No. 91
October 2025

TOPICS

第26回通常総会を開催 …… 1
令和6年度事業報告 …… 2
令和6年度生乳品質共励会について …… 9
生乳品質共励会開催要領の一部改正について …… 11
令和7年度月別受託生乳検査成績 …… 11
酪農情勢報告 …… 12
令和6年度乳用牛繁殖改善事業の実績について …… 13
加工原料乳生産者経営安定対策事業に係るお知らせ …… 13
酪農理解醸成・牛乳消費拡大対策事業 お知らせとご報告 …… 14
新聞広告を掲載しました …… 16
酪農教育ファーム活動について …… 18
令和7年度牛乳・乳製品利用拡大推進運動について …… 19
令和7年度会員別生乳受託販売数量/令和7年度販売状況について …… 20

第26回通常総会を開催

去る7月30日、福岡市内のホテルにて第26回通常総会を開催しました。ご来賓として農林水産省・九州農政局を始め、中央酪農会議・Jミルク・九州管内県庁畜産課・全農・全酪連よりご臨席を賜り、代表して農林水産省牛乳乳製品課 須永新平課長、中央酪農会議 菊池淳志専務理事よりご祝辞をいただきました。

令和7年度の事業計画につきましては、去る3月27日開催の臨時総会において承認を得ていますので、本総会においては下記の1議案が上程され、原案どおり承認されました。

第1号議案

令和6年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、注記表、附属明細書及び剰余金処分案の承認について

開会挨拶　中村会長

来賓祝辞　須永課長

来賓祝辞　菊池専務

議事進行　大川議長

令和6年度 事業報告

一般概況（抜粋）

酪農においては、生乳生産コストは引き続き高い水準でとどまっており、依然として厳しい経営状況となりました。生乳需給においては、牛乳・乳製品の値上げによる消費低迷に備えるため、引き続き乳製品過剰在庫対策に生産者・乳業者・国で取り組みましたが、一方では全国的に系統外出荷が増えたこともあり、生乳需給への影響が顕著になりました。需給調整の不公平感を無くすための拠出が国の補助事業を受けるためのクロスコンプライアンスとなったことは、系統外も需給調整の負担を担うようになったという意味では一歩前進しました。乳価交渉については、全ての物価が上がり、消費者の節約志向が高まるなかでの値上げ交渉となり、非常に厳しい交渉となりました。値上げ時期としては7年度6月分から脱脂粉乳・バター向け、生クリーム向け、チーズ向け3円値上げ（バターとクリーム仕向けは10円値上げ）、8月分から飲用・はっ酵向け4円値上げとなりました。

生乳生産量については、厳しい経営環境、前年度の猛暑による分娩の遅れや国内初となったランピースキン病発生の影響から538,865t（計画比98.0%、前年度比97.5%）と計画・前年度ともに下回りました。酪農家戸数についても厳しい経営環境から、前年度を上回る70戸が離農廃業となりました。

生乳販売においては飲用化の推進、用途別販売数量の管理、経費削減による総合乳価の向上に取り組み、理解醸成・消費拡大においては酪農と牛乳・乳製品の価値訴求、生乳検査においては検査精度の維持と酪農経営に役立つ検査を実施することに努めてまいりました。

1. 生乳受託販売数量

中央酪農会議が実施する生乳需給安定化対策において、これまで3年間を単位とする中期生乳需給安定化対策が行われてきましたが、令和6年度は単年度での実施となり、各指定団体の出荷目標数量は年間販売計画の数量を基本として設定されました。九州においては、各会員を通じて生産者ごとの計画数量を取りまとめた生乳委託計画の数量である558,575,129kg（前年度比101.1%）をそのまま目標数量としました。

このような中、前年度まで系統外出荷を行っていた大型の生産者1戸が4月から全量系統出荷に戻ってきたこともあり、年度当初は前年度に近い推移を保っていましたが、飼料価格を始めとした生産資材価格の高止まりや例年にない厳しい暑さが続いた影響を受けて、9月には前年度比が95%台まで落ち込みました。11月には九州内において国内初となる感染症・ランピースキン病が発生し、生乳出荷の自粛や自主淘汰などを余儀なくされた（令和7年1月23日現在、計22例の発生、疑症牛を含めて、累計230頭の発症を確認。現在の発症頭数は0頭。）ことや、生乳出荷戸数が4月以降3月までに70戸減少したことも影響し、低調な推移が続きました。

結果として、上期は269,748t（計画比98.5%、前年度比98.6%）、下期は269,117t（計画比97.4%、前年度比96.5%）、年度計では538,865t（計画比98.0%、前年度比97.5%）と計画・前年度の数量を下回りました。（表1）

表1　月別生乳受託販売数量実績（単位：計画t、実績kg、%）

月	事業計画	実　績	計画比	前年度比
4	49,700	49,670,767	99.9	99.8
5	50,000	49,863,074	99.7	99.8
6	45,900	46,081,631	100.4	100.7
7	43,700	43,090,455	98.6	98.9
8	42,500	40,842,022	96.1	96.1
9	42,000	40,199,583	95.7	95.7
上期計	273,800	269,747,532	98.5	98.6
10	44,400	43,025,758	96.9	97.0
11	43,900	42,588,856	97.0	97.0
12	46,300	44,932,477	97.0	96.9
1	47,400	46,129,747	97.3	97.1
2	44,100	42,901,345	97.3	92.9
3	50,100	49,538,788	98.9	98.0
下期計	276,200	269,116,971	97.4	96.5
年度計	550,000	538,864,503	98.0	97.5

2. 生乳販売

食料品に限らず値上げが繰り返し行われ物価の高騰が続いていることで、全体的な消費が低迷する中、牛乳・乳製品についても同様に、前年度に実施された価格改定の影響を受けて消費は前年度を下回る低調な推移が続きました。

このような中、域内飲用向けは前年度比97.9%と低調であり、生乳受託販売数量の減少に伴い域外飲用向けも前年度を大きく下回ったことにより、飲用牛乳等向けは

表2-1　用途別販売実績　（単位：計画t、実績kg、%）

用　途		計　画	実　　績	計画比	前年度比	構成比
飲用牛乳等向け計	域内飲用	277,940	274,812,746.6	99.3	97.9	51.0
	学　　給	40,180	39,915,624.4	99.3	98.8	7.4
	域外飲用	68,190	57,149,235.8	82.3	87.8	10.6
		386,310	371,877,606.8	96.3	96.3	69.0
はっ酵乳等向け		83,980	85,250,602.2	101.5	100.7	15.8
脱脂粉乳・バター等向け		50,660	54,393,687.0	107.4	103.6	10.1
クリーム等向け		27,940	26,219,256.0	93.8	93.4	4.9
チーズ向け		1,110	1,123,351.0	101.2	101.5	0.2
計		550,000	538,864,503.0	98.0	97.5	100.0

371,878t（計画比96.3%、前年度比96.3%）と計画・前年度の数量を下回りました。

はっ酵乳等向けは、飲用向けが低調な分、各社がはっ酵乳等で販売を強化する傾向が見られ、85,251t（計画比101.5%、前年度比100.7%）と、計画・前年度の数量をともに上回りました。脱脂粉乳・バター等向けは、低調な他用途の数量減少分が仕向けられたことに加え、江崎グリコのシステム障害や台風10号の影響を受けたことで増加し、54,394t（計画比107.4%、前年度比103.6%）と計画・前年度の数量を上回りました。クリーム等向けは26,219t（計画比93.8%、前年度比93.4%）と価格改定の影響が続いていることで計画・前年度の数量を下回りました。チーズ向けは1,123t（計画比101.2%、前年度比101.5%）と堅調に推移しました。（表2-1）

販売先を地域別に見ると、九州域内473,117t（前年度比99.2%）、中国地区6,779t（前年度比90.5%）、関西その他地区58,969t（前年度比86.6%）の実績となりました。（表2-2）

表2-2　地域別販売実績　（単位：kg、%）

地域別	実　績	前年度比	構成比
九　　州	473,117,277	99.2	87.8
中　　国	6,778,623	90.5	1.3
四　　国	0	0.0	0.0
関西その他	58,968,603	86.6	10.9
計	538,864,503	97.5	100.0

3. 生乳販売価格・販売費用

令和5年8月に飲用向け及びはっ酵乳等向けで10円/kg、令和5年12月に脱脂粉乳・バター等向けのうちのバター仕向け分とクリーム等向けのうちのクリーム仕向け分で6円/kg、令和6年4月に学乳向けで10円/kgの値上げ改定が行われたことが、今年度のプラス要素となりました。

用途別の販売実績数量は前述のとおりであり、この中で、江崎グリコのシステム障害による脱脂粉乳・バター等向けの増加に対しては、江崎グリコとの協議の結果、飲用向けとの差額が補填金として支払われたこともあって、プール対象生乳代金は前年度＋3.475円/kg、成分加算金を加えて前年＋3.532円/kgとなりました。

販売費用のうち集乳経費は、2024年問題を背景とした人件費の高騰などに対し、集乳事業の継続を図る目的から、令和6年4月から概ね10%の値上げ改定を実施したため、前年度より増加しました。送乳経費も同様の値上げを実施しましたが、生乳受託販売数量の減少に伴い、比較的単価の高い域外向けが減少したことで、前年度と比べて微増に留まりました。CS・冷却費は、水道光熱費や保守修繕費が増加する一方、対象乳量が減少して冷却費が抑えられ、前年度と同水準となりました。これらの結果、販売費用は前年度＋0.386円/kgとなりました。

生乳販売代金（基本乳代＋季節別乳価調整金＋成分加算金）から販売費用を差し引いた支払い単価は、前年度＋3.146円/kgとなりました。（表3）

表3　販売乳価及び費用の比較　※千円単位での四捨五入のため計が一致しない場合がある。

年　度			令和6年度	令和5年度	差
乳　量			538,865t	552,042t	△13,537t
プール対象生乳代金		金額	69,170,147千円	68,988,547千円	181,600千円
		単価	128.363円	124.888円	3.475円
成　分加算金		金額	1,086,395千円	1,082,172千円	4,223千円
		単価	2.016円	1.959円	0.057円
生乳代金計		金額	70,256,542千円	70,070,720千円	185,822千円
		単価	130.379円	126.847円	3.532円
販売費用		金額	4,428,845千円	4,327,162千円	101,683千円
		単価	8.219円	7.833円	0.386円
支払乳価		金額	65,827,697千円	65,743,557千円	84,140千円
		単価	122.160円	119.014円	3.146円

4. 乳代精算

生乳販売代金については、各月に販売して得たプール対象生乳代金に季節別乳価実施要領で定める各月の季節別乳価調整率（93～114%）を乗じた季節別調整後金額を、会員ごとの乳量であん分して精算しました。

成分加算金については、乳業者からの受取成分加算金を各会員の成分基準値上回り量に応じてあん分しました。

販売費用については、販売手数料（生乳受託販売代金（基本乳代＋成分加算金）の0.3%）、生乳検査料（販売数量に0.12円/kgを乗じた金額）、送乳経費（実費）・CS冷却費（実費）・集乳経費（実費）をそれぞれ会員ごとの乳量であん分して乳代から控除しました。

月ごとの調整により発生した季節別調整額の残高と借越しの金利負担額は6～11月の乳量であん分し、3月分生乳代金と同時に精算しました。（表4）

5. 加工原料乳生産者補給金及び集送乳調整金

令和6年度畜産物価格において、加工原料乳生産者補給金および集送乳調整金の総交付対象数量は325万トン（前年度△5万t）、補給金単価は8.92円/kg（前年度＋0.23円/kg）、集送乳調整金単価は2.68円/kg（前年度＋0.03円/kg）、合計11.60円/kg（前年度＋0.26円/kg）となりました。

本会の交付対象数量は、全国の令和6年度年間販売計画における特定乳製品向け（脱脂粉乳・バター等向け、クリーム等向け、チーズ向け）の合計数量が総交付対象数量を約8.4%超過したことから、申請数量に対し約8.4%の調整がなされ、76,537,300kgとなりました。

加工原料乳認定数量は80,584,614kgとなり、交付対象数量を4,047,314kg上回りましたが、交付対象数量を下回った事業者があったため、農林水産省によって調整・再配分が行われ、最終的な交付対象数量は76,960,300kgとなりました。交付対象数量を超過した3,624,314kgについては、別途措置されているバター・脱脂粉乳需給不均衡及び生乳流通改善緊急事業により、補給金及び集送乳調整金に準じた単価により算定された補助金が交付されました。

これらを踏まえ、各生産者に対しては生産者補給金686,485,874円、集送乳調整金206,253,602円、総額892,739,476円を四半期ごとに（ただし、第2四半期分は第4四半期と同時に支払い）会員を通じて支払いました。なお、受託乳量1kgあたりの単価は、生産者補給金が1.282円/kg（前年度＋0.008円/kg）、集送乳調整金は0.385円/kg（前年度△0.003円/kg）となりました。（表5）

表5　加工原料乳生産者補給金および集送乳調整金

項　目	数　量
交付対象数量（当初）	76,537,300kg
交付対象数量（再配分後）	76,960,300kg
認定数量	80,584,614kg
補給金交付数量	76,960,300kg

項　目	単　価	金　額
生産者補給金	8.92円／kg	686,485,874円
集送乳調整金	2.68円／kg	206,253,602円
合計	11.60円／kg	892,739,476円

6. 生乳受託販売業務の合理化の推進

電子端末等を用いて集乳量を集約する仕組みへ統一し、会員の集乳量データを本会へ一括集約することで、令和7年4月から受託乳量の確定業務を本会が一元的に行うことを目指して協議を行いました。新規に電子端末を用いた仕組みを導入する会員との具体的協議や、集約した情報からあん分確定する受託乳量を会員システムと連携するため、

表4　生乳代金の精算

※千円単位での四捨五入のため計が一致しない場合がある。

月	プール対象生乳代金（千円）	季節別調整率（%）	季節別調整後金額（千円）	成分加算金（千円）	販売費用（千円）	支払乳代（千円）	季節別調整額（千円）	累計季節別調整額（千円）
4	6,232,641	94	5,858,683	97,297	423,667	5,532,313	373,958	373,958
5	6,411,702	94	6,027,000	93,050	425,079	5,694,971	384,702	758,661
6	6,058,869	100	6,058,869	82,830	399,652	5,742,048	0	758,661
7	5,620,266	110	6,182,292	63,476	360,512	5,885,256	△562,027	196,634
8	5,275,739	110	5,803,313	51,480	327,552	5,527,242	△527,574	△330,940
9	5,329,549	114	6,075,686	58,716	327,177	5,807,225	△746,137	△1,077,077
10	5,669,702	105	5,953,187	80,890	346,452	5,687,625	△283,485	△1,360,562
11	5,542,724	100	5,542,724	90,305	338,478	5,294,551	0	△1,360,562
12	5,614,376	93	5,221,369	117,019	356,425	4,981,963	393,006	△967,556
1	5,817,899	93	5,410,646	124,600	375,104	5,160,142	407,253	△560,303
2	5,477,588	93	5,094,156	112,797	354,421	4,852,533	383,431	△176,871
3	6,119,093	93	5,690,756	113,935	394,327	5,410,364	428,336	251,465
計	69,170,147		68,918,682	1,086,395	4,428,845	65,576,232	△251,465	

九販連の受託システムの構築について検討を進めました。

一方、本会に集約された「全委託者の合計乳量」を用いて、個人別受託乳量を確定する方法を検討してきましたが、生乳流通の各段階における乳量差異の内容精査が難航し、統一的な方法の実施には至りませんでした。このため、全委託者の合計乳量であん分する確定方法の合意が得られるまでは移行期間を設け、体制の整った会員から当該会員の「集乳量」と「販売乳量」の差を販売乳量に合わせるあん分計算により「個人別受託乳量」を確定することを要領に定めました。

また、「生乳受託販売業務の合理化に係る基本方針」に基づく、個人別乳代金計算手法の統一に向けた協議を進めるため、個人別乳価に係る調査を実施しました。

7. 乳用牛繁殖改善事業

生産者の繁殖改善の取組みを支援するため、本事業においてPAGs（乳汁中妊娠関連糖蛋白質）検査への助成を実施しています。本会検査所および会員施設にPAGs検査を依頼した生産者に対し、1検体あたり300円（税抜）、夏場の受胎率向上を目的に6月から11月は1検体400円（税抜）の助成を実施しました。助成対象検体数は5,472本（前年度比107.6%）、助成総額は1,903,800円（税抜）となりました。

8. 酪農理解醸成及び牛乳消費拡大対策事業

（1）会員実施分　事業総額35,000千円

各会員が実施した酪農理解醸成活動、牛乳消費拡大運動への助成を行いました。また、酪農が生活者にとってより身近なものとなるよう、「ファン獲得運動」としてFacebook、Instagramを活用し、各会員から報告された地域のイベントや生産現場の記事や写真を生活者へ向けて発信しました。

（2）本会実施分　事業総額39,224千円

乳価改定後もなお酪農家の窮状が改善しきれていない状況や、相次ぐ食料品の値上げに伴い牛乳・乳製品の買い控えが懸念される状況を踏まえ、九州の牛乳を飲もう、応援しようという機運が醸成されるよう、また、九州産牛乳・乳製品の幅広い需要拡大に向け、九州全体での取り組みを実施しました。

具体的な施策として、まず令和5年度生乳品質共励会の最優秀賞者をモデルに、「牛乳に、きっと朝はくる。」というキャッチコピーで、8月17日と9月21日に新聞広告を掲出しました。

また、5月7日には、福岡ソフトバンクホークスの本拠地であるみずほPayPayドーム福岡で行われた公式戦に協賛して冠スポンサーとなり、試合を通じて「九州生まれの牛乳」を全面的にPRするとともに、6千本のLL牛乳のサンプリングや模擬搾乳体験を実施しました。

7月27～28日の2日間、長崎県酪連及びその会員組合、長崎県酪農青年女性会議の協力を得て2024ながさきみなとまつりにブース出展し、牛乳・カフェオレの無料試飲、チラシ・リーフレット等のサンプリング2,400セット、模擬搾乳体験、牛乳試飲等を実施しました。

不需要期の牛乳消費拡大の施策としては、11～3月にかけて牛乳利用拡大推進運動を実施し、酪農家自らが牛乳の消費拡大運動を率先して行い生活者に向けて広く消費拡大の必要性と協力を呼びかけました。また、九州7県のフードバンクに会員と連携してLL牛乳約46千本を無償提供する取り組みを行いました。

（3）牛乳定着化事業
事業総額18,401千円（中央酪農会議助成金）

中央酪農会議の事業を活用し、酪農理解醸成・牛乳消費拡大活動を実施しました。インターネット・SNSを活用した取り組みとしては、「＃牛乳ヒゲチャレンジ2024」、「牛乳川柳コンテスト2025」を実施しました。また、スポーツと牛乳を絡めた消費拡大施策「KYUSHU RUGBY × MILK」として、九州ラグビーフットボール協会とタイアップし、九州各県で開催された小・中学生対象のラグビー大会でLL牛乳、チラシ、パンフレット等の配布等を行いました。1～2月には牛乳購買の促進のため、イオン九州・系列店の各店舗で「ミルクで応援キャンペーン2025」を実施しました。また、この期間中、キャンペーンの周知を兼ねて本会のオリジナルキャラクター「ミルとミク」を使ったTVCMを放映しました。

2月には牛乳・乳製品料理の普及・定着化を図るため、2回目となる「九州ミルク料理コンクール」を実施しました。

（4）酪農教育ファーム事業
事業総額1,875千円（中央酪農会議助成金）

児童・生徒や教育関係者へ酪農に触れる機会を提供し、酪農家の想いや工夫を学ぶことで食への関心を高め、酪農への理解といのちを尊重する心を育む酪農教育ファーム事業を行いました。

5月には推進委員会を開催し、前年度活動報告及び今年度活動計画について協議しました。同日開催の教材作成委員会においては、令和5年度に作成した教材の配布について協議しました。

8月には教師のための酪農体験学習会及び現地会議を開催しました。大分県杵築市のたばた牧場で開催し、杵築市教育長をはじめ近隣の小中学校教諭16名、大分県栄養士研究会4名、酪農家及び関係者総勢36名が参加しました。前年度に引き続き開催県の牛乳協会から講師を招き、牛乳が処理されて消費者に届くまでの話をしていただきました。また、当日の体験や会議の様子を動画で見てもらい、体験実施へつなげる取組みも行いました。

新規認証についてはファシリテーター3名が取得し、認証牧場については1戸が申請を行いましたが、ランピースキン病発生のため年度内での現地審査を見送る形となりました。

年度末の認証牧場とファシリテーター数は、表8-1、事業費の内訳は表8-2のとおりです。

表8-1　（単位　認証牧場：戸、ファシリテーター：人）

	認証牧場	ファシリテーター
福岡	3	7
佐賀	3	3
長崎	1	1
熊本	5	12
大分	2	8
宮崎	5	9
鹿児島	3	5
計	22	45

表8-2　単位（千円）

事　業	内　訳		実績
	委託費	実施者負担	
九州地区推進委員会	244	0	244
地域活動実施	458	0	458
地域活動資材関連	93	0	93
事業推進費	1,080	0	1,080
合計	1,875	0	1,875

9. 生乳検査事業

（1）生乳検査成績

乳質向上対策実施要領による個人配分検査を、生産者バルククーラー単位に月2回、年24回実施しました。

検査成績は年間加重平均で脂肪分率3.99％（前年度＋0.02％）、無脂乳固形分率8.85％（前年度＋0.01％）となり、脂肪分、無脂乳固形分ともに夏期は一時的に低下しましたが、年間平均では前年度を上回る高い数値となりました。

体細胞数については21.0万/ml（前年度＋0.2万/ml）と、記録的な夏の酷暑の影響を受け微増となり、また、ペナルティバルクの発生比率は17.5％（前年度＋0.7％）、ペナルティ乳量の発生比率は13.1％（前年度＋0.3％）となり、こちらも前年度より増加しました。

細菌数も夏場に上昇し、その影響により年間平均値は2.7万/mlとなり前年度より0.3万/ml増加しました。

氷点の基準外のバルククーラーの割合は1.9％となり前年度の1.4％より増加し、過去5年で最も高い比率となりました。その原因と対策については、会員との情報共有や生産者への指導を要請しました。

また、継続して脂肪酸組成（デノボFA、デノボMilk、プレフォームFA）の検査を実施し、搾乳牛の飼養管理への活用に繋がるよう会員へデータを提供しました。

過去5年間の乳質等の推移は表9-1のとおりです。

表9-1

年 度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
脂肪分率	3.90%	3.92%	3.94%	3.97%	3.99%
無脂乳固形分率	8.82%	8.83%	8.81%	8.84%	8.85%
全固形分率	12.72%	12.75%	12.75%	12.81%	12.84%
体細胞数	21.5万	20.7万	21.0万	20.8万	21.0万
細菌数	3.1万	2.5万	2.4万	2.4万	2.7万
氷点-0.510℃を超えるバルクの比率	0.7%	0.4%	1.0%	1.4%	1.9%

（2）生乳検査本数

配分検査は酪農家戸数の減少により前年度比94.9％、乳用牛群検定事業検査は搾乳牛頭数の減少により前年度比94.5％となりました。生乳取引検査は前年度比96.4％、指導検査は前年度比75.4％、依頼検査は前年度比101.9％、PAGs検査は検査依頼生産者の増加により大きく増え前年度比114.1％となり、検査総本数は955,411本、計画比98.2％、前年度比94.7％の実績となりました。

乳用牛群検定事業検査については本年度も九州全県の委託を受け実施しました。また、乳業者との成分取引に係る検査については福岡・佐賀・熊本・大分・鹿児島について実施し、乳代請求における成分加算金の算定に利用されました。

依頼検査とPAGs検査は生産者からの依頼に応じて、指導検査は会員等からの依頼に応じて実施しました。

検査内容と実績本数については表9-2、検査種・機器別の検査本数は表9-3のとおりです。

表9-2　（単位：本）

内容	年間計画	R6年実績	R5年実績	計画比	前年度比
配分細菌検査	24,270	23,917	25,007	98.5%	95.6%
配分成分検査	24,510	24,218	25,702	98.8%	94.2%
牛群検定検査	854,500	837,086	885,939	98.0%	94.5%
取引検査	41,140	42,295	43,863	102.8%	96.4%
指導検査	6,650	5,089	6,751	76.5%	75.4%
依頼検査	17,250	17,697	17,363	102.6%	101.9%
PAGs検査	5,000	5,109	4,479	102.2%	114.1%
総検査本数	973,320	955,411	1,009,104	98.2%	94.7%

表9-3　上段：本数　下段：前年度比

検査種別	コンビフォス	バクトスキャン	PAGs検査
配分検査	24,218 94.2%	23,917 95.6%	－ －
牛群検定検査	837,086 94.5%	－ －	－ －
依頼検査	15,533 101.2%	2,164 107.6%	5,109 114.1%
取引検査	42,295 96.4%	－ －	－ －
指導検査	4,069 76.2%	1,020 72.4%	－ －
合　計	923,201 94.6%	27,101 95.3%	5,109 114.1%

(3)生乳検査料金

検査料金は受託乳量に対し0.12円/kg、乳用牛群検定事業検査は45円/本、依頼検査は成分・体細胞100円/本、細菌検査300円/本、PAGs検査は800円/本です。

抗菌性物質検査用ディスクシャーレについては、100円/枚で供給しました。

(4)生乳検査精度管理

本会は精度管理認証制度において、「検査部門」(脂肪分率・無脂乳固形分率・体細胞数)及び「検体採取部門」について認証を受けています。今年度は3年に一度の更新手続きとなり、書類検査並びに現地検査の結果、改善・指摘事項もなく認証されました。また、年4回実施された外部精度管理調査に参加し、全ての項目において許容範囲内の精度を維持しました。

九州域内生乳検査施設クロスチェックは、九州域内の検査精度の向上と平準化を図るため、CS・乳業者の検査室(18か所)を対象に、年3回実施しました。

機器の整備については、精度の維持・管理のため自主点検及び機器メーカーによる高度なプログラムによる定期点検や整備を実施し、より安定した検査体制を構築しました。加えて、定期点検時には機器メーカー整備員から機器整備技術の指導を受け、本会検査職員の知識と整備技能の向上を図りました。

保守用部品製造終了となる乳成分測定機器(コンビフォス)については、検査業務に支障が生じないよう計画通り更新しました。

(5)生乳の安全・安心の確保

「生乳の安全・安心の確保のための九州協議会」は、行政や各種指導機関、乳業者、生乳生産に関連する業者等を会員とし、6月に福岡市で開催し令和6年度の取組方針を決定しました。また、取組方針が円滑に推進できるよう会員の安全・安心担当者会議も同日開催しました。

更に、令和6年度は生乳の安全性を確保するための対応の強化が求められたことを受け、5月と1月にも会員安全・安心担当者会議を開催し、主に生産者における動物用医薬品の適正使用と記帳・記録の保管が確実に行われるよう協議検討致しました。その結果、巡回指導検証においては、検証する側のチェックも厳しくなり1回目の報告ではチェックシート重点記帳項目の一部記入者や未記入者が前年度より増えましたが、各会員の指導の成果により最終確認結果においての重点記帳項目の未記入・一部記入の酪農家はゼロとなりました。

重点記帳項目の巡回検証最終結果は表9-4のとおりです。

表9-4　重点記帳項目の最終記帳状況

良好	一部記入	未記入
976戸	0戸	0戸

Jミルクが実施するポジティブリストに係る管理対象物質11物質(動物用医薬品4物質、洗剤・殺菌消毒剤・殺虫剤等7物質)の残留検査結果は、9検体全ての検体で基準値以下でした。

また、Jミルクの依頼により生乳中のアフラトキシンM1検査を1月に1検体(全国12検体)実施し、「陰性」となりました。

規格外生乳の廃棄事故は47件・280トン(前年度54件・284トン)発生し、前年度より件数・廃棄乳量ともに減少しました。発生原因別で最も多いのは抗菌生物質陽性で、20件・128t(前年度22件・125t)と原因別割合の43%を占めました。発生要因は治療牛の取り違い等による誤搾乳、家族・従業員間での連携ミス等となっています。次いで多いのは異物混入で9件・58t、次に細菌数異常で8件・39t、血乳混入8件・47tでこの4原因が全体の96%を占めました。

多くの規格外生乳廃棄は人為的ミス、搾乳施設の点検漏れなど事前に確認すれば未然に防止できるものでした。廃棄乳削減対策のため、事故発生の際には詳細を報告してもらい原因を究明し、会員へ情報提供したことで、発生件数は年々減少しており対策の一定の効果が得られました。

(6)ローリー乗務員研修

集送乳乗務員に対する研修会を、乗務員の業務終了後に現地で2会員に延べ4回実施し、生乳の取り扱い上の注意点や検査方法、異物混入事故防止等について講習しました。

また、日本乳業技術協会が実施している「生乳集荷のためのオンライン研修(ドライバー研修)」への参加を推進し、集乳担当者等30名の参加がありました。

(7)会員・乳業者の技術研修

会員CS職員等の生乳に関する基礎知識の習得、検査技術の確認と向上を図るため、生乳検査技術研修会を5, 9、11、1月で年4回開催し、組合・CS等の職員の他、検査関連の職員、農プラ系乳業の品質管理担当職員など計22名が研修を受けられました。なお、講師は本会検査部職員が行い職員の資質向上の機会と知識の習得にも寄与しました。

その他に会員が開催する乳質改善の技術交流会に職員を派遣しました。

(8)生乳品質共励会の開催

令和6年度生乳品質共励会を令和6年4月1日～令和7年3月31日の対象期間で開催しました。その結果、審査対象農家は946戸(大学校、高等学校を含む)で、最高得点は1,195点・平均点は881点(前年度△18点)となりました。上位入賞者は、最優秀賞が第1部　松本良策氏1,195点(長崎県)、第2部　山口大貴氏1,155点(長崎県)、第3部　右田祐樹氏1,145点(熊本県)

となり、その他に優秀賞31名、優良賞（1,000点以上）194名、連続優秀賞13名の生産者が受賞されました。

(9)抗菌性物質検査用PDシャーレとチャームキットの供給

抗菌性物質検査用のディスクシャーレについては、ふくおか県酪農協・長崎県酪連・大分県酪農協等に対し継続して供給をしました。

また、チャーム検査用キットについては、本会が窓口となり安価で安定した供給を会員に行いました。

10. 補助事業

本年度は以下の補助事業を行いました。

(1)生乳生産者需要確保事業	16,818,181円
(2)国産チーズ生産奨励事業	386,660円
(3)加工原料乳生産者経営安定対策事業	0円
(4)バター・脱脂粉乳需給不均衡及び生乳流通改善緊急事業	26,565,124円

11. 酪農乳業産業基盤強化特別対策事業

Jミルクが実施した2024年度酪農乳業産業基盤強化特別対策事業のうち酪農生産基盤強化総合対策事業を活用し、助成金は会員実施分が43,214,232円となりました。

12. 総務部門

(1)内部留保の充実

前年度剰余金については目的積立金56,000千円（経営健全化積立金56,000千円）を積み立てることとし、内部留保による自己資本の回復を図りました。

(2)効率的な資金管理

生乳代金の遅延未収金はありません。資金借入については金融機関との情報交換や今後の借入について協議を行いました。

(3)職員採用への対応

7年度に向けて中途職員の採用を実施しました。退職者と生乳受託業務の拡大にともなう増員分を採用しました。

(4)職員研修の実施

職員のスキルアップのため若手職員を中心に7名が資格取得のため通信講座を受講しました。

(5)コンプライアンス態勢の推進

コンプライアンス遵守の意識付けのため、研修会、セルフチェック、フィードバックのための面談を行いました。

役員においては8月に研修会（ハラスメント）を実施しました。職員においては個人情報保護に重点を置き、個人情報取り扱い一覧表の作成、セルフチェックと面談を実施しました。

(6)情報の提供

年4回「九州生乳販連会報」を発行し、会員、酪農家及び関係団体へ生乳生産状況や販売状況、酪農を取り巻く環境の動向、酪農理解醸成や消費拡大事業など情報の提供を行いました。

第26年度 貸借対照表

（令和7年3月31日現在）

（単位：千円）

科目	金額	科目	金額
（資産の部）		（負債の部）	
流動資産	**8,763,059**	**流動負債**	**8,304,175**
預金	740,489	事業未払金	7,862,699
事業未収金	8,070,979	リース債務	22,831
棚卸資産	1,327	雑負債	413,055
雑資産	13,625	賞与引当金	5,590
貸倒引当金	△ 63,361	**固定負債**	**106,036**
固定資産	**196,387**	**負債の部合計**	**8,410,211**
有形固定資産	97,602	**出資金**	**70,000**
無形固定資産	0	**利益準備金**	**140,000**
外部出資その他の資産	98,785	**特別積立金**	**10,000**
		目的積立金	**265,000**
		繰越利益剰余金	**64,235**
		純資産の部合計	**549,235**
資産の部合計	**8,959,446**	**負債・純資産の部合計**	**8,959,446**

第26年度 損益計算書

（令和6年4月1日より令和7年3月31日まで）

（単位：千円）

科目		金額
1 事業総利益		**244,309**
(1) 販売事業収益	4,449,840	
(2) 販売事業費用	4,291,938	
販売事業総利益		**157,901**
(3) 検査事業収益	110,859	
(4) 検査事業費用	24,451	
検査事業総利益		**86,408**
2 事業管理費		**193,905**
事業利益		**50,404**
3 事業外収益		**968,998**
4 事業外費用		**961,127**
経常利益		**58,275**
5 特別利益		**0**
6 特別損失		**0**
税引前当期純利益		**58,275**
法人税等合計		**417**
当期純利益		**57,858**
繰越利益剰余金期首残高		**6,377**
積立金取崩額合計		**0**
繰越利益剰余金期末残高		**64,235**

令和6年度生乳品質共励会表彰式について

去る7月30日、福岡市内のホテルにて令和6年度生乳品質共励会表彰式を開催いたしました。
最優秀賞受賞者はこちらの方々です。

下段左より　長崎県酪連　森憲仁参事（第1部　松本良策さん代理）
長崎県　山口直敏さん（第2部　山口大貴さん代理）
熊本県酪連　小池泰隆常務理事（第3部　右田祐樹さん代理）

第1部　松本良策さん

第3部　右田祐樹さん

最優秀賞受賞者のコメント

第1部 最優秀賞　松本　良策 さん

この度はこのような栄誉ある賞を賜り大変うれしく思います。
また、身が引き締まる思いでもあります。
そして、ご指導、ご教授いただいた皆様に対しては、感謝の念に堪えません。有難うございました。
このことを励みに、今後も乳質の向上に努めていきたいと思います。

第2部 最優秀賞　山口　大貴 さん（直敏さんコメント）

私のところは、組合の検査室がありまして、そこで毎日検査し当日には結果がわかるのですが、それを見ながら搾っていることが乳質を維持している理由だろうと思ってます。
表彰台に立つのに一番何が難しいかというと体細胞数です。そのために土壌改良剤の石灰を敷料に使ったり、検査では体細胞の種類が判るのでそのテータを活用してます。検査室の方の努力に感謝してますし、みんなに支えてもらってここに立っていると思ってます。あとはミルカーです。ミルカーの仕組みをきちんと理解し、真空圧を調整し、ライナーを選定し過搾乳をしないことが重要です。
本日はありがとうございました。また来年もよろしくお願いします。

第3部 最優秀賞　右田　祐樹 さん

令和6年度生乳品質共励会で最優秀賞をいただき、有難うございます。
安定した高品質な生乳を生産できたのは、牛たちの健康と環境を第一に考え、愛情をこめて育てているからこそできたのだと思います。
今後も、技術の研鑽に努めて高品質な生乳を生産し、地域酪農の発展に貢献していきたいと考えています。

令和6年度生乳品質共励会の結果について

生乳品質共励会は、開催要領に基づき4月から3月までの1年間を対象に、月2回実施した乳質検査の結果を配点基準により採点し、24回の合計点数（1,200点満点）で評価しています。

それぞれの審査項目と基準値は、脂肪分率3.8%以上・無脂乳固形分率8.7%以上・細菌数3万以下・体細胞数10万以下・氷点－0.520℃未満という、厳しいものになっています。

令和6年度は、前年度と同様に夏は記録的な暑さとなり、乳牛にとって過酷な天候であったため、夏場の乳成分は低下し、体細胞数と細菌数の増加、氷点の上昇を招き、生乳品質共励会成績の平均得点は、881点と昨年度の899点を大きく下回りました。一方、暑熱対策や的確な飼養管理などの努力により、高い品質を維持する生産者もいらっしゃいました。

共励会の結果については、955名の対象者の中で、生産乳量階層別に3部門の3名（第1部250㌧未満 長崎県 松本良策氏、第2部250㌧以上500㌧未満 長崎県 山口大貴氏、第3部500㌧以上 熊本県 右田祐樹氏）に最優秀賞・九州生乳販連会長賞が授与され、その栄誉を称えました。

また、副賞として第1部の黒木氏には九州農政局局長賞と全国酪農業協同組合連合会会長賞、第2部の山口氏には（一社）日本乳業協会会長賞と全国農業協同組合連合会会長賞、第3部の右田氏には（一社）中央酪農会議会長賞と（一社）Jミルク会長賞がそれぞれ贈られました。

生産規模に関係なく上位31名には優秀賞が授与され、優秀賞受賞記念のステンレスプレートが、1,000点以上を獲得された154名の優良賞受賞者には「2024優良生乳生産管理牧場」のステッカーがそれぞれ贈られました。更に、3年連続で優秀賞を受賞された13名の連続優秀賞者に名前入りのステンレスプレートが贈られました。

優秀賞、連続優秀賞の方々は、下記のとおりです。

令和6年度　九州生乳販連生乳品質共励会　優秀賞一覧表

番号	県	氏　名	得点	規模別ランク	表　彰	番号	県	氏　名	得点	規模別ランク	表　彰
1部	長崎	松本　良策	1,195	1	**1部 最優秀賞**	15	熊本	中村　直樹	1,126	2	優秀賞15
2部	長崎	山口　大貴	1,155	2	**2部 最優秀賞**	16	熊本	立作　浩一	1,124	2	優秀賞16
3部	熊本	右田　祐樹	1,145	3	**3部 最優秀賞**	17	熊本	山下　誠也	1,120	1	優秀賞17
1	宮崎	黒木　英教	1,170	1	優秀賞1	18	熊本	古庄　和廣	1,112	2	優秀賞18
2	福岡	野田　貞治	1,154	2	優秀賞2	19	熊本	芳賀アグリカルチャー㈲	1,111	3	優秀賞19
3	宮崎	温水　優子	1,154	2	優秀賞3	20	熊本	中村　竜郎	1,111	3	優秀賞20
4	熊本	㈲生山牧場	1,148	2	優秀賞4	21	鹿児島	牧原　浩一	1,111	3	優秀賞21
5	熊本	梁池　朋幸	1,145	2	優秀賞5	22	熊本	斉藤 和彦（吉富）	1,111	2	優秀賞22
6	福岡	鶴田　昇	1,144	1	優秀賞6	23	熊本	㈲ナガシオ	1,105	3	優秀賞23
7	福岡	有田　徹	1,142	2	優秀賞7	24	鹿児島	山下　栄一	1,103	3	優秀賞24
8	福岡	森田　純一郎	1,142	2	優秀賞8	25	福岡	宮崎　悟	1,102	2	優秀賞25
9	熊本	西本　敏雄	1,140	2	優秀賞9	26	熊本	㈱マツノファーム	1,097	3	優秀賞26
10	宮崎	早田　卓史	1,139	3	優秀賞10	27	熊本	工藤　伸一	1,097	2	優秀賞27
11	大分	衛藤　哲男	1,138	1	優秀賞11	28	熊本	吉村　信明	1,095	1	優秀賞28
12	大分	㈲田中牧場	1,135	2	優秀賞12	29	大分	竹内　正敏	1,094	3	優秀賞29
13	熊本	村岡　泰司	1,131	1	優秀賞13	30	福岡	藤井　正剛	1,094	2	優秀賞30
14	熊本	尾方　学	1,127	3	優秀賞14	31	宮崎	赤木　大介	1,094	2	優秀賞31

1部：250㌧未満　　2部：250～500㌧　　3部：500㌧超

（敬称略）

令和6年度　連続優秀賞一覧表

県	氏　名	令和4年度	令和5年度	令和6年度
福岡	野田　貞治	優秀賞14	優秀賞24	優秀賞2
福岡	森田　純一郎	優秀賞23	優秀賞4	優秀賞7
長崎	松本　良策	優秀賞7	優秀賞11	**1部最優秀賞**
長崎	山口　大貴	**1部最優秀賞**	**2部最優秀賞**	**2部最優秀賞**
熊本	右田　祐樹	優秀賞13	**3部最優秀賞**	**3部最優秀賞**
熊本	㈲生山牧場	優秀賞1	優秀賞25	優秀賞4
熊本	村岡　泰司	優秀賞11	優秀賞8	優秀賞12

県	氏　名	令和4年度	令和5年度	令和6年度
大分	竹内　正敏	**3部最優秀賞**	優秀賞6	優秀賞28
宮崎	黒木　英教	優秀賞29	**1部最優秀賞**	優秀賞1
宮崎	早田　卓史	優秀賞22	優秀賞17	優秀賞9
宮崎	赤木　大介	優秀賞4	優秀賞18	優秀賞30
鹿児島	牧原　浩一	優秀賞9	優秀賞14	優秀賞20
鹿児島	山下　栄一	優秀賞5	優秀賞10	優秀賞23

（敬称略）

生乳品質共励会開催要領の一部改正について

令和7年7月11日付で、生乳品質共励会開催要領を一部改正いたしました。
改正の概要については以下のとおりです。

改正概要（令和7年度生乳品質共励会より適用）

- **連続優秀賞者へ連続年数に応じた賞金を授与する。**

3年以上　3万円	5年以上　5万円	7年以上　7万円	10年以上　10万円

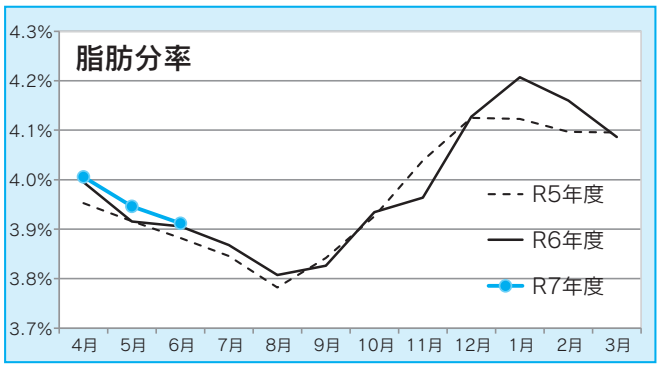
- **連続最優秀賞の新設と連続年数に応じた賞金を授与する。**

3年以上　6万円	5年以上　10万円	7年以上　14万円	10年以上　20万円

- **検査成績報告先と表彰式出席者の変更。**

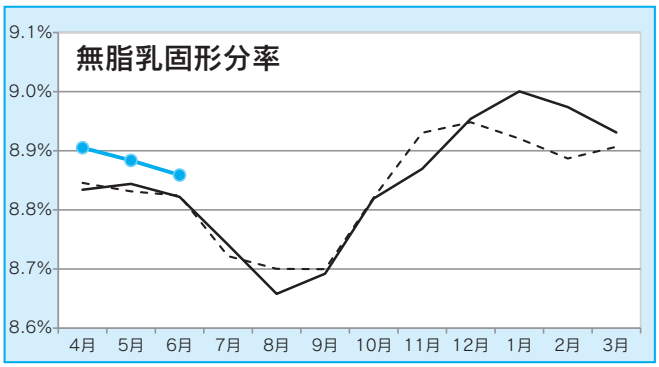
今回の改正では、連続して好成績を収められた方に賞金を増額するものとなっております。
例えば、3年連続優秀賞の方の賞金は、従来の優秀賞賞金3万円＋連続優秀賞3万円となります。
生乳品質の向上につきまして、なお一層のご尽力をお願いいたします。

令和7年度月別受託生乳検査成績



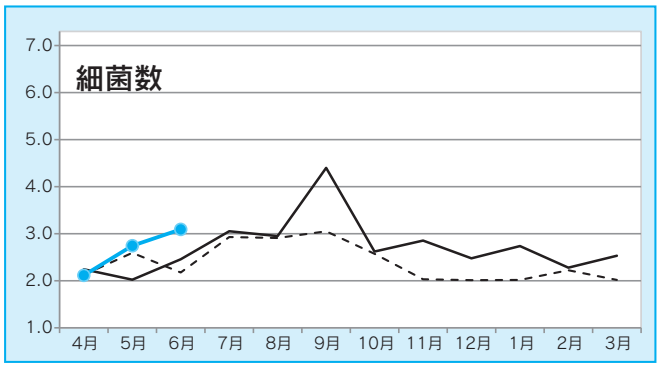
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R5年度	3.95	3.92	3.88	3.85	3.78	3.84	3.93	4.04	4.13	4.12	4.10	4.10
R6年度	4.00	3.92	3.91	3.87	3.81	3.83	3.93	3.96	4.13	4.21	4.16	4.09
R7年度	4.01	3.95	3.91									

（単位：%）



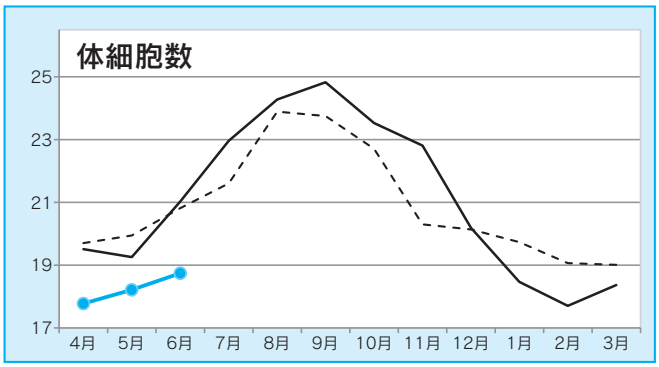
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R5年度	8.85	8.83	8.82	8.72	8.70	8.70	8.82	8.93	8.95	8.92	8.89	8.91
R6年度	8.83	8.84	8.82	8.74	8.66	8.69	8.82	8.87	8.95	9.00	8.97	8.93
R7年度	8.91	8.88	8.86									

（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R5年度	2.1	2.6	2.2	2.9	2.9	3.1	2.6	2.0	2.0	2.0	2.2	2.0
R6年度	2.2	2.0	2.5	3.1	2.9	4.4	2.6	2.9	2.5	2.7	2.3	2.5
R7年度	2.1	2.7	3.1									

（単位：万/ml）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R5年度	19.7	19.9	20.8	21.6	23.9	23.7	22.7	20.3	20.1	19.7	19.1	19.0
R6年度	19.5	19.3	21.0	23.0	24.3	24.8	23.5	22.8	20.2	18.5	17.7	18.4
R7年度	17.8	18.2	18.7									

（単位：万/ml）

酪農情勢報告

1. 九州の生乳出荷戸数

令和7年6月の生乳出荷戸数は947戸で、令和7年3月時点の975戸と比較すると28戸の減少となりました。

2. 九州の乳用種雌牛飼養頭数と出生頭数

4～6月の乳用種雌牛飼養頭数は、23カ月令以下、24カ月令以上ともに前年を下回っており、総頭数も前年を3～4%下回って推移しています(表1)。

表1　乳用種雌牛飼養頭数　(単位:頭)

		4月	5月	6月
23カ月令以下		23,972	23,822	23,662
	増減	-1,488	-1,333	-1,219
	前年比	94.2%	94.7%	95.1%
24カ月令以上		69,512	69,057	68,762
	増減	-2,060	-2,113	-1,954
	前年比	97.1%	97.0%	97.2%
総頭数		93,484	92,879	92,424
	増減	-3,548	-3,446	-3,173
	前年比	96.3%	96.4%	96.7%

注:Jミルクホームページより

3～5月の出生総頭数は、総頭数で前年を下回り、その内訳として、乳用種雌はほぼ前年並みとなったものの、乳用種雄・交雑種は前年を下回りました(表2)。

表2　出生頭数　(単位:頭)

		3月	4月	5月	累計(3-5月)
総頭数		2,994	2,045	1,740	6,779
	増減	-42	-164	-347	-553
	前年比	98.6%	92.6%	83.4%	92.5%
うち、乳用種雌		749	458	363	1,570
	増減	10	19	-40	-11
	前年比	101.4%	104.3%	90.1%	99.3%
うち、乳用種雄		275	164	122	561
	増減	-7	-6	-13	-26
	前年比	97.5%	96.5%	90.4%	95.6%
うち、交雑種		1,333	915	713	2,961
	増減	5	-83	-160	-238
	前年比	100.4%	91.7%	81.7%	92.6%

注:Jミルクホームページより

3. 生乳需給

(1)生乳受託販売数量

4～6月の生乳受託販売数量は、戸数・頭数の減少の影響により前年を2～3%下回る推移となりました。また、都府県は僅かに前年を下回る水準、北海道は前年を上回った水準での推移となりました(表3)。

表3　生乳受託乳量　(単位:t、%)

		4月	5月	6月	累計(4-6月)
九　州		48,379	48,737	44,573	141,689
	前年比	98.0%	98.4%	97.4%	97.9%
都府県		257,699	262,640	241,959	762,297
	前年比	99.9%	99.8%	99.1%	99.6%
北海道		339,644	353,705	341,287	1,034,636
	前年比	102.1%	102.1%	103.8%	102.7%
全　国		597,343	616,345	583,245	1,796,933
	前年比	101.1%	101.1%	101.8%	101.3%

注:中央酪農会議　用途別販売実績(速報)より
注:公共除く。ただし、都府県の内訳として中国のみ公共含む。

(2)生乳販売状況

今年1月以降、全国的に飲用需要が停滞し、脱脂粉乳・バター等向けが増加していましたが、4～6月においてもその傾向は継続し、全国の飲用向けは前年を下回り、脱脂粉乳・バター等向けが前年を上回りました。

このような中、4～6月の九州の用途別販売は、停滞する需要の中でも有利販売に努め、脱脂粉乳・バター等向けは4～6月累計で前年を下回りました(表4)。

表4　用途別販売数量　(単位:t、%)

	用途	4月	5月	6月	累計(4-6月)
九州	飲用	31,367	33,400	32,393	97,160
	(前年比)	98.8%	98.5%	95.4%	97.5%
	はっ酵乳	7,163	7,286	7,039	21,488
	(前年比)	99.4%	96.6%	98.3%	98.1%
	脱脂粉乳・バター等	7,306	5,672	3,121	16,098
	(前年比)	93.3%	99.4%	119.6%	99.7%
	生クリーム	2,447	2,298	1,953	6,699
	(前年比)	99.5%	100.7%	98.3%	99.6%
	チーズ	96	81	67	244
	(前年比)	100.3%	85.5%	82.3%	89.8%
全国	飲用	232,742	249,448	251,896	734,087
	(前年比)	98.6%	98.8%	98.3%	98.6%
	はっ酵乳	35,978	36,387	35,890	108,255
	(前年比)	102.3%	98.4%	98.3%	99.6%
	脱脂粉乳・バター等	183,287	179,415	152,898	515,600
	(前年比)	105.1%	103.1%	113.1%	106.6%
	生クリーム	106,306	111,374	104,822	322,502
	(前年比)	99.1%	103.6%	98.8%	100.5%
	チーズ	39,029	39,721	37,739	116,489
	(前年比)	103.5%	102.1%	97.1%	100.9%

注:中央酪農会議　用途別販売実績(速報)より

(13ページへ続く)

4. 今後の生乳需給について

6月から乳製品向け乳価の値上げとそれに伴う乳製品の価格改定が実施されましたが、現時点（7月下旬）で大きな需要の減少は見られていません。一方、例年より3週間早い梅雨明けとそれ以降の猛烈な暑さの影響で生乳生産が急激に減少し、7月上・中旬の生乳需給は逼迫しました。7月中旬に一時気温が下がった影響で7月下旬の乳量は回復を見せましたが、暑さは再び厳しさを増しており、今後の生乳生産動向は予断を許しません。

8月からは飲用等向け乳価の値上げが予定されており、このことによる需給の変動も注視する必要があります。さらに、本会としては、猛暑と価格改定、系統外牛乳等の生乳需給への影響を見極め、今後も継続して全農・全酪連との協調体制を維持し、安定的な需給調整と有利販売が行えるよう努めていきます。

令和6年度乳用牛繁殖改善事業の実績について

1. 実施内容

繁殖改善に取り組む生産者を支援するため、本事業でPAGs検査の助成を行いました。

2. 対象者

令和6年4月～令和7年3月に本会検査所および会員検査施設にPAGs検査を依頼した生産者

3. 助成実績

（1）助成単価　4～5月、12～3月は300円/本（税別）、6～11月は400円/本（税別）
（2）助成総額　2,094千円（税込）
（3）助成対象本数　5,472本（前年比107.6%）

（本）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
当期本数	555	636	545	606	320	315	406	430	512	529	323	295	5,472
前期本数	484	514	500	429	362	326	336	395	468	491	373	407	5,085
前年比	114.7%	123.7%	109.0%	141.3%	88.4%	96.6%	120.8%	108.9%	109.4%	107.7%	86.6%	72.5%	107.6%

PAGs検査を実施することで空胎牛の早期発見、受胎率向上に繋がります！
令和7年度事業の実施については、前回号（№90、P12）に掲載しています。
是非ご活用ください！

加工原料乳生産者経営安定対策事業に係るお知らせ

1. 独立行政法人農畜産業振興機構より、令和6年度平均取引価格及び令和7年度補填基準価格等について通知がありましたのでお知らせします。

①　令和6年度平均取引価格	96.67円/kg
②　令和6年度補填基準価格	85.20円/kg
③　令和7年度補填基準価格	90.52円/kg

＊　上記価格は加工原料乳1kgあたり。
＊　令和6年度においては、平均取引価格（①）が補填基準価格（②）を上回ったため、補填金の交付は行われません。

2. 令和7年4月24日開催の令和7年度第1回理事会において決定した、今年度の生産者拠出金単価：加工原料乳1kgあたり0.20円については、独立行政法人農畜産業振興機構に申請し、承認されましたので通知します。

令和7年度生産者拠出金単価（加工原料乳1kgあたり）	0.20円/kg

酪農理解醸成・牛乳消費拡大対策事業 お知らせとご報告

～福岡ソフトバンクホークス戦への冠協賛企画～「九州生まれの牛乳スペシャルデー」開催！

6月3日（火）、福岡ソフトバンクホークスの本拠地みずほPayPayドーム福岡での公式戦にて、試合を通じて「九州生まれの牛乳」、「父の日には牛乳をおくろう」を全面的にPRするイベントを開催し、来場者に広く牛乳消費拡大を訴えました。コンコースでは、模擬牛による搾乳体験や牛乳クイズを実施し、多くの方にご参加いただきました。また、会場出口において来場者へチラシ・LL牛乳の無償配布を行い、用意した6,000セットは好評のうちにすべて配り終えました。

ビジョン・アナウンスによる「九州生まれの牛乳」「父の日には牛乳をおくろう」のPR

実施日		令和7年6月3日（火）
会　場		みずほPayPayドーム福岡
対戦カード		福岡ソフトバンクホークス VS 中日ドラゴンズ
入場者数		37,953人
ゲームタイトル		九州生まれの牛乳スペシャルデー
実施内容	始球式・記念品贈呈	中村会長による始球式、中村会長・中島副会長による両チームへのLL牛乳贈呈
	試合前協賛団体名紹介・インフォメーション	アナウンスによる本会紹介・DJによる「九州生まれの牛乳」「父の日には牛乳をおくろう」のPR
	ドーム内ビジョン・モニターでのCM放映、団体名掲出	CM：（ビジョン）試合前2回・試合中2回（モニター）試合中5回 団体名掲出：試合前・リプレイ／選手登場・ラッキー7・花火等
	その他掲出物	横断幕・のぼり・インフォメーションLED・フォトスポット・サークルLED等での団体名掲出
	コンコース内での酪農理解醸成ブース展開	搾乳体験・牛乳クイズ「ひみつのミルクイズ」
	サンプリング	6,000セット（九州生まれの牛乳・チラシ）

会長･副会長による記念品の贈呈

会長による始球式

コンコースでの理解醸成活動の様子

＃牛乳ヒゲチャレンジ2025、＃父の日には牛乳を贈ろう2025を実施しました！

牛乳月間の6月1日～30日に、牛乳を飲んでできた牛乳ヒゲの写真を「＃牛乳ヒゲチャレンジ2025」のハッシュタグをつけてInstagramに投稿した方、お父さんと牛乳を飲む写真を「＃父の日には牛乳を贈ろう2025」のハッシュタグをつけてInstagramに投稿した方の中から抽選でLL牛乳1ケース（200ml×24本）と、その内優秀作品の方にオリジナルQUOカードPayをプレゼントするキャンペーンを実施しました。

笑顔いっぱいの牛乳ヒゲ姿の写真、お父さんと牛乳を楽しんで飲む写真が合計247件投稿され、キャンペーンに楽しんで参加されている様子が伝わってきました。

また、投稿の中には、牛乳を飲む姿の写真とともに「酪農家さん、いつも美味しい牛乳をありがとうございます！」といったコメントも見ることができました。

今後も九州の酪農・牛乳に対する酪農理解醸成と牛乳消費拡大のための様々な施策を展開してまいります。

今回のキャンペーンの内容、投稿写真については本会Instagramアカウントやハッシュタグ等から閲覧することが出来ますので、こちらもぜひご覧ください。

＼ 九販連公式サイト･SNSはこちら！ ／

ホームページ　https://kyuhanren.com/
Facebook　https://www.facebook.com/kyuhanren/
Instagram　https://www.instagram.com/kyusyulovemilkclub/
X　https://twitter.com/love_milk_club

新聞広告を掲載しました check!

『九州に酪農家がいるから、牛乳の鮮度は守られている。』

◆7月26日（土）掲載　令和6年度生乳品質共励会2部最優秀賞：長崎県諫早市　山口牧場さん

新聞を使った酪農理解醸成活動として、普段飲んでいる新鮮な牛乳は毎日働く九州の酪農家がいるから、ということを改めて訴求する新聞広告を掲載しました。

◆7月26日（土）掲載　令和6年度生乳品質共励会3部最優秀賞：熊本県菊池市　右田牧場さん

（1部最優秀賞の長崎県雲仙市・松本牧場さんは次号で紹介予定です。）

酪農教育ファーム活動について
教育関係者のための酪農体験学習会及び現地会議を開催しました!

8月5日(火)、福岡県須恵町の森牧場にて酪農体験学習会及び現地会議を開催しました。日ごろ学乳を通じて牛乳に親しんでいる教育関係者に酪農教育ファームの教育的価値を訴求し、酪農産業の魅力発信・理解醸成に寄与することを目的としています。この日の参加者は牧場近隣の小・中学校教員と家族をはじめ、交牧連会員牧場及び本会会員担当者など総勢23名に上りました。

まず牧場での体験学習会として搾乳・哺乳・バター作り・餌やりの各体験を行ったのち、コミュニティセンターに会場を移して、酪農の現状や、酪農という仕事、体験の感想、生き物のいのちについて意見交換を行いました。また、乳業者を講師に招き「牛乳乳製品が食卓に届くまで」をテーマに講演をしていただきました。当日の体験や会議の様子を視聴できるよう、YouTubeに動画を残す取り組みも行っています。

実施後のアンケートでは、「牛乳の価格は安すぎるのではないかと感じた」「酪農や牛乳に対する見方が変わった」「子どもたちにも直に触れてもらいたい」などの言葉をいただきました。教育現場での酪農体験学習に繋げていけるよう、引き続き努めてまいります。

令和7年度牛乳・乳製品利用拡大推進運動について

九州産生乳の安定的な需要維持・拡大を目的として、生活者に「九州産」牛乳・乳製品利用のメリットを実感していただけるよう牛乳・乳製品利用拡大推進運動を実施いたします。

生乳出荷戸数にLL牛乳（24本入り）5c/s・バター（30個入り）1c/sを乗じて目標数量※とし、九州全体で達成に向けて取り組むことといたしました。

詳細な運動期間と申込方法は各会員にご確認ください。皆様の積極的な運動へのご参加、ご協力をよろしくお願いいたします。

※実際の目標数量は案内送付時点の直近戸数で計算いたします。

【熊本県酪連】

【九州乳業㈱】

【南日本酪農㈱】

- **商 品 名**：九州生まれの牛乳。
- **種 類 別**：牛乳（常温保存可能品）
- **原材料名**：生乳100％
- **内 容 量**：200ml
- **殺　　菌**：【熊本県酪連・九州乳業㈱】140℃　3秒間
  【南日本酪農㈱】140℃　2秒間
- **1ケース入り数**：24本
- **保存方法**：常温を超えない温度で保存
- **賞味期限**：90日間

【㈱弘乳舎】

【九州乳業㈱】

【南日本酪農㈱】

- **商 品 名**：九州生まれのバター
- **種 類 別**：バター
- **原材料名**：生乳・食塩
- **内 容 量**：【㈱弘乳舎・南日本酪農㈱】200g
  【九州乳業㈱】225g
- **中箱入数**：【㈱弘乳舎・南日本酪農㈱】200g×6個
  【九州乳業㈱】225g×6個
- **1ケース入り数**：中箱×5個
- **保存方法**：【㈱弘乳舎】-18℃以下で冷凍保存
  【九州乳業㈱・南日本酪農㈱】10℃以下で冷蔵保存
- **賞味期限**：【㈱弘乳舎】冷凍で3年
  【九州乳業㈱・南日本酪農㈱】冷蔵で6カ月

令和7年度会員別生乳受託販売数量

（単位：ｔ、%）

	ふくおか県酪協		佐賀県農協		長崎県酪連		熊本県酪連		大分県酪協		宮崎県農協		鹿児島県酪協		合　計	
	実　績	前年比	実　績	前年比	実　績	前年比	実　績	前年比	実　績	前年比	実　績	前年比	実　績	前年比	実　績	前年比
4月	5,158	97.5	1,049	99.7	2,769	97.8	22,082	98.1	5,904	99.5	6,204	98.6	5,515	95.7	48,681	98.0
5月	5,215	98.6	1,052	98.8	2,792	98.2	22,381	98.2	5,930	101.2	6,174	97.5	5,506	96.9	49,049	98.4
6月	4,779	97.5	951	95.4	2,582	97.2	20,476	96.9	5,398	99.2	5,643	97.4	5,004	96.8	44,833	97.3
合 計	15,152	97.9	3,052	98.0	8,143	97.8	64,939	97.8	17,231	100.0	18,021	97.8	16,025	96.4	142,563	97.9

令和7年度販売状況について

用途別生乳販売実績

（単位　数量：t、前年比：%、単価：円/kg）

用　途		4月			5月			6月			第1四半期計		
		数　量	前年比	単価	数　量	前年比	単価	数　量	前年比	単価	数　量	前年比	単価
飲用等向け	域内飲用向け	22,192	100.6	134.143	23,278	101.6	134.731	23,250	96.9	135.031	68,720	99.7	134.640
	学校給食向け	2,903	102.7		3,965	94.0		4,388	102.2		11,256	99.2	
	域外飲用向け	6,458	91.4		6,349	90.8		4,947	84.1		17,754	89.1	
	飲用牛乳等向け計	31,553	98.7		33,592	98.5		32,585	95.4		97,729	97.5	
	はっ酵乳等向け	7,163	99.4		7,286	96.6		7,039	98.3		21,488	98.1	
	飲用等向け合計	38,716	98.9		40,878	98.1		39,624	95.9		119,217	97.6	
特定乳製品向け	脱脂粉乳・バター等向け	7,400	93.3	91.355	5,768	99.3	92.104	3,166	119.4	99.806	16,334	99.7	93.503
	クリーム等向け	2,470	99.5		2,321	100.7		1,976	97.9		6,768	99.4	
	チーズ向け	96	100.3		81	85.5		67	82.3		244	89.8	
	特定乳製品向け計	9,966	94.8		8,171	99.6		5,209	109.6		23,346	99.5	
販売乳量合計		48,681	98.0	125.384	49,049	98.4	127.630	44,833	97.3	130.938	142,563	97.9	127.903

支払乳代

（単位　金額：千円、単価：円/kg）

項　目	4月		5月		6月		第1四半期計	
	金　額	単価	金　額	単価	金　額	単価	金　額	単価
基本乳代 ①	6,103,852	125.384	6,260,083	127.630	5,870,370	130.938	18,234,305	127.903
脂肪分加算金	46,695	0.959	41,302	0.842	35,850	0.800	123,847	0.869
無脂固形分加算金	55,436	1.139	55,091	1.123	46,792	1.044	157,319	1.104
成分加算金計 ②	102,131	2.098	96,393	1.965	82,642	1.843	281,166	1.972
季節別調整率 ③	94%	－	94%	－	100%	－	－	－
季節別調整金	-366,231	-7.523	-375,605	-7.658	0	0.000	-741,836	-5.204
調整後乳代 ④＝①×③	5,737,621	117.861	5,884,478	119.973	5,870,370	130.938	17,492,469	122.700
販売手数料	18,618	0.382	19,069	0.389	17,859	0.398	55,546	0.390
生乳検査料	5,842	0.120	5,886	0.120	5,380	0.120	17,108	0.120
送乳経費	197,132	4.049	199,484	4.067	182,858	4.079	579,474	4.065
需要者負担額（運賃補填）	-1,828	-0.038	-2,444	-0.050	-2,999	-0.067	-7,271	-0.051
ＣＳ・冷却費	51,315	1.054	51,082	1.041	53,561	1.195	155,958	1.094
集乳経費	131,458	2.700	132,034	2.692	121,335	2.706	384,827	2.699
プール費用 ⑤	402,537	8.269	405,112	8.259	377,993	8.431	1,185,642	8.317
差引乳価 ②＋④－⑤	5,437,215	111.690	5,575,760	113.678	5,575,019	124.350	16,587,994	116.355